

わたしのまちづくり わたしのまちづくり

石巻専修大学連携事業で地域貢献

石巻信用金庫 地域貢献課 課長 高橋 誠 一

I. 当金庫の事業エリアの概要

当金庫は昭和3年2月創業、宮城県仙台市より東に約50キロ、石巻市に本店を置き、12店舗で営業を行っています。

当金庫の事業エリアである石巻市は、平成17年4月1日に一市六町が合併して新「石巻市」となり、平成20年3月末時点で人口は約16万人、世帯数は60,294世帯となっています。

主要産業は漁業・養殖・水産加工業です。また、産業別事業所構成比で見ると、「卸・小売・飲食店」は43%、「サービス業」・「建設業」は38%を占めており、そのほとんどが中小零細企業です。

中心市街地の商店街の衰退は全国的な現象ですが、当地区においても、郊外への大型店の集積により、中心商店街の集客力が激減してシャッター街となっており、中心部の百貨店や大型スーパーの閉店も続いています。



(高橋さん)

II. 顧客貢献・地域貢献なくして信用金庫はありえない

当金庫は、「顧客貢献・地域貢献なくして石巻信用金庫の存在はありえない」、この実践を通じて地域社会に寄与すること、これが営業活動の全てであることを念頭に、平成19年、「石巻専修大学」、「中小企業基盤整備機構」と連携協力協定を締結、また若手経営者を対象に「石巻しんきん経営塾(現在41名)」を設立しました。



(石巻市の位置)
出典：BIGLOBE 地図



(石巻専修大学調印式)



(石巻しんきん経営塾)

当金庫はこれまでも地域貢献活動として、少年スポーツ大会や旅行会等を実施してきましたが、平成 20 年 4 月、金庫方針を具体化するための専担部署として、理事長直轄の地域貢献課を新設、「石巻専修大学」との連携事業の推進や「石巻しんきん経営塾」の運営、その他地域貢献活動に取り組んでいます。

Ⅲ. 石巻専修大学との連携事業

(1) 石巻信用金庫『IS 奨学金』の創設

当金庫は「地域づくりは人づくり」との考えから、地域貢献活動の一環として、平成 7 年度、石巻専修大学に石巻信用金庫『IS 奨学金』を創設しました。これは、若手研究員に研究費として毎年 100 万円を贈呈するもので、15 年間で約 50 名の方に総額 1,500 万円の支援をしてきました。

(2) 石巻専修大学連携窓口の設置

～技術相談ニーズの発掘・橋渡し

平成 19 年 3 月、連携協力協定締結を受け、各支店に「石巻専修大学連携窓口」を設置し、石巻専修大学を紹介する冊子と「産学金相談申込書」を配置して、技術相談等の受付ができる体制を図りました。しかし、店頭で相談申込書を配置したにもかかわらず、申込みはありませんでした。

そこで平成 20 年 11 月、地域貢献課が、地元水産加工会社約 100 社を対象に技術相談・共同研究の紹介を兼ねた訪問活動を実施したところ、9 企業 10 件の技術相談ニーズを発掘することができました。

主な相談内容

- ・ 鮭白子の活用
- ・ 汚泥の処理
- ・ 生銀鮭の骨抜き機械の制作
- ・ インターネット販売の仕組作り 等

そして、石巻専修大学に①相談申込書を持参、②担当教授の選任を依頼、③相談企業への担当教授との同行訪問というステップを踏んで、技術相談等の橋渡しを実現させました。

今回橋渡しをした相談案件の 1 つ、「汚泥処理の問題」が、石巻専修大学教授の持っているシーズと合致したことから、宮城県に実験費用の補助金を申請したところ、補助金の認定・交付が決定したため、平成 21 年 9 月末より実験を開始しました。

この実験の成功により、技術相談企業の経営改善や環境改善、さらに、同じように汚泥処理に悩んでいる地区内外の水産加工会社等の環境改善にも繋がることが期待されています。

今回の実験開始により、相談企業より感謝され、当金庫の地域貢献活動が地元新聞に大きく取り上げられ、金庫のイメージアップに繋がっており、業務を通じて地域の環境改善に貢献できることに喜びを感じています。

(3) 産学金コーディネーター

認定研修の実施

平成 21 年 9 月 12 日(土)・17 日(木)・25 日(金)の 3 日間、支店長 12 名・本部課長 4 名・渉外担当代理 4 名・外部企業参加者(金庫職員 OB)1 名・合計 21 名を対象にして、産学金コーディネーター認定研修を実施しました。

この認定研修のカリキュラムは、信金中金・鉢嶺氏や山形大学・足立氏などの①講師による講義、②企業視察、③レポート発表の 3 部構成になっています。

この認定研修によりコーディネーターの育成を図り、大学と企業の橋渡しを実現化させ、地域の「顧客」や「企業」に喜ばれ、信用され、選ばれ、愛され、地域社会の発展に貢献できる信用金庫となることを目標としています。

そして、当金庫が地域に密着した産学金連携事業を先導することで、多くの起業創出に貢献し、また、豊かな自然環境を生かして安全・安心な食品作りに貢献し、石巻ニューブランドの開発につながる役割を発揮することを目指しています。



(講師：山形大学 足立和成 氏)

(4) 講演会・研修会の実施

石巻専修大学と連携して、講演会・研修会も実施しています。

平成 19 年度は 4 回開催・参加者延べ 582 名、平成 20 年度は 5 回開催・参加者延べ 545 名、平成 21 年度は 1 回開催・参加者 70 名で総合計 10 回開催・総参加者延べ 1,197 名となっています。



(石巻専修大学学生による
プレゼンテーション)

講演会の開催は、宮城県の観光キャンペーンに合わせ、観光をテーマにして 6 回開催、観光産業の振興と食産業のビジネスチャンスによる商店の活性化に結びつけました。

また、講演会の終了後に、参加者全員による「交流広場」を 2 回開催しました。「交流広場」は、参加者各自が興味をもつ分科会(①観光ルート、②情報発信、③歴史・文化・自然、④食・物産・もてなし)に参加し、参加者と大学教授が一緒になって悩みや意見を交換し、問題解決を図っていく場となっています。

(5) インターンシップの実施

平成 19 年度より石巻専修大学生をインターン生として受け入れています。

カリキュラムには、①信用金庫と金融業務の基礎知識、②就職活動と職業選択、③接客マナーの基本、④営業店見学等を盛り込んでいます。

(6) 清掃活動の実施

環境保全活動の取り組みとして、清掃活動を実施しています。平成 20 年度は、観光ロード 11 コースを設定し、石巻専修大学と宮城県石巻商業高校との共催で参加者 312 名により実施しました。

平成 21 年度も前年同様大学と高校の参加により、海水浴場の清掃活動を 240 名の参加者で実施しました。

IV. 石巻専修大学共創研究センターに研究員として参加！

平成 21 年 6 月、石巻専修大学・共創研究センターが設立され、「地域課題解決型の 5 研究テーマプロジェクト」がスタートしました。

この研究プロジェクトの一つである「地域問題解決型金融システムの構築プロジェクト」の研究員として、当金庫職員の派遣を要請され、現在研究員として参加しています。

V. 地域貢献課ならではの「やりがい」

このように、地域貢献課に配属されて地域貢献に取り組む中で、次の点に「やりがい」を感じています。

- ①学官との結びつきにより、大学のたくさんの教授・石巻市・宮城県、国等の人材と出会いがあり、情報、知識、考え方など、勉強になることが多い。
- ②これまでの一連の継続的な業務でなく、常に新しい業務にチャレンジすることができる。
- ③会議・講演会やセミナーに参加し、勉強する機会が多く、自分の成長にも結びついている。
- ④金庫方針の組立てから実現まで (PDCA) が自分の責任であり、金庫方針を具現化できる。

今回の創刊号の発刊に際し、当庫の地域貢献活動が掲載できる機会を賜り感謝致しております。

今後このしんきんグローバルが全国信用金庫の担当者間の意見交換、情報収集の場として発展に繋がることを期待し、未熟ながら寄稿させていただきました。

しんきんグローバル創刊おめでとうございました。

石巻専修大学から 石巻信用金庫へ



石巻専修大学 大学開放センター長
工藤すばるさん

石巻地域の多大な支援を受け平成元年に開学した本学は、開学時より「大学開放センター」を設置し、地域貢献を図ってきました。

この間、大学も地方も取巻く状況が大きく変わりました。大学はユニバーサル化が進み競争が激化していますし、地方は高齢化に加え、産業構造の変化、グローバル化の進行等により、瀕死の状況にあります。

現在本学は開学の原点に立返り、地に足のついた地域連携を改めて進め、地域の持続的発展に寄与することが大学の維持発展につながるの考えの下、石巻信用金庫との IS プロジェクト、4 自治体との包括協定、3 高等学校との高大接続協定等、各方面との結びつきを強化しています。本年 4 月には地域課題等をテーマに研究を行う「共創研究センター」を新たに設置したところでもあります。

石巻信用金庫は、大学の教職員には不案内な地域企業等の情報を中心に、長年にわたる膨大な蓄積があります。今後、石巻信用金庫がかけ橋となり、この情報と大学の知の資源とが結びつき、大きな成果へ発展してくれるものと期待しています。